高等学校等からの講演依頼に係る受諾条件

2021（令和3）年 8月

大正大学地域創生学部　教授　浦崎 太郎

① 新学習指導要領の具現化を本音で考えていること

- 学習指導要領は、学校教育が次世代や社会の未来に果たすべき役割について有識者が議論を重ねた結晶であり、それを具現化した先にこそ、生徒・学校・地域の未来は開けます。それは、「総合的な探究の時間に何をさせればよいのか？」レベルの話ではなく、教育課程全体を見渡す視座や、**生徒観・教育観などの抜本的な変革**を厭わない覚悟が必要です。
- したがって、自己変革の意思がなく、旧来の慣習を温存したまま、小手先の「奇策」「メッキ」を期待する高校様からのご依頼には応えられません。

② 変革のプロセスを事前に共有できていること

- 学校を本気で変革していくには、高度な専門性に基づく**緻密なプロセス設計が必要**であり、最も確実なのは、**事業計画を立案する段階から浦崎が参画**することです。それが難しい場合には、最低限、管理職を含む推進核の皆様と浦崎とで、予め**事業計画の妥当性を検証**し、**講演後の展開について完全に共有**できていることが必要です。
- 変革のプロセスを共有せず、全教職員を対象とした唐突かつ単発的な講演を務めても、むしろ逆効果なので、こうしたご依頼には応えられません。

③ 大正大学「高大接続パートナーシップ・プロジェクト SUPP ※」に参加できること

※ Schools-University Partnership Project ： 略称 **S-U.P.P.** または **SUPP**

詳細は『**学研・進学情報**』2021年9月号、『**キャリアガイダンス**』2021年10月号（予定）をご覧下さい。

- 大正大学は「縁ある高校様とともに未来を創りだしていきたい」との想いから SUPP を始めました。これは例えば、理念や内容を共有できる高校様に対して、本学が種々の学習資源を提供し、卒業生を本学に迎えて「7年一貫教育」育て上げるとともに、卒業生の姿や報告を通して自校の変革を検証できるようにする、というものです。
- **浦崎の講演内容と大正大学**（現状は地域創生学部）**の教育基調は、何れも SUPP の一貫として地続き**の関係にあります。また、浦崎の出講は、大学教員として自学のために充てるべき時間を割いて行っている活動であり、SUPPに参加している高校様であるか否かによって、当然、優先順位は大きく異なってきます。
- したがって、「自校を変革するノウハウは欲しいが、**偏差値を主要な尺度に大学等を選択させる」進路指導が本音**である高校様からのご依頼には応えられません。

④ 動画視聴による予習を前提とすること

- 初学者むけの内容は、ほとんど **YouTube で無料公開**していることから、「事前に適宜の**動画視聴を求め、質問を受け付け、当日は回答と整理**をする」という流れを基本としています。
- したがって、予習を前提とせず、YouTube動画にある程度の情報の伝達を期待するご依頼には応えられません。

― 以上 ―

（参考資料）

Society 3.0 的な高校

「学校・教師のための生徒」が本心の高校は
「自分らしさ」を疎んじ、
生徒は授業が苦しく、
総合型選抜を受験するのは「自己解放」のため。
合格後は勉強を止め、
大学では努力を惜しみ、
社会に出るのが恐ろしく、内定は終着点。
社会と対立的で、社会から軽んじられ、
キャリアダウンする。

Society 4.0 的な高校

「生徒のための学校・教師」が本心の高校は
「自分らしさ」を尊重し、
生徒は授業が楽しく、
総合型選抜を受験するのは「自己実現」のため。
合格後も学びを続け、
大学では自走的に学び、
社会に出るのが楽しみで、内定は出発点。
社会と調和的で、社会から大切にされ、
キャリアアップする。

「教育の対象」視点 vs「学びの主体」視点

▲ （大人が） 子ども・若者に 愛郷心を持たせるには？
○ 一人ひとりの子ども・若者が愛郷心を持つとは？

▲ 団結して関わらせるべき 共通の地域課題とは？
○ 一人ひとりが よさを生かしあって 社会に参加するとは？

▲ 地域を残すために「地域らしさ」を植え付ける
○ 一人ひとりが「自分らしさ」を発揮することで 地域は残る

▲ 正解は万人に共通で、大人が現に持っている
○ 正解は一人ひとり異なり、子ども・若者が内に秘めている

▲ 教師が 児童・生徒の集団全体を どう教育するか？
○ 老若男女、一人ひとりが 関わりあいながら どう学ぶか？

急務は「社会観・人間観・仕事観」の転換

・人の世は、規格化された個人を部品とする機械系である
・この世は 固定的なので、個人も関係性も変化は不要
・個人は、個性を封印して、集団に所属すべき存在である
（自分を業務に適合させ、努力して成果を出すべき）
・子どもは 自走できない（させてはいけない）存在である

・人の世は 元来、多様性に満ちた生態系である
・この世は 激動的なので、個人も関係性も変化が必要
・個人は、個性を発揮して、集団を創造していく存在である
（自分に合った仕事を創出し、夢中になれば 成果は出る）
・子どもは マイテーマに出会えば 自走できる存在である

マイプロジェクトを 軸とした高大一貫教育

「個性に応じた学び」視点（マイテーマ・マイプロジェクト）

高校：探究で見方・考え方を深める
「自分らしさ」を追求する
マイプロで価値を創造する

入試：総合型選抜・推薦入試などで
マイプロ・探究の成果を評価

大学：マイテーマに寄り添った
授業・課外活動の運営
（学生の問いに専門科目で答える）
“マイプロ”で価値を創造する

就活：授業で深めた見方・考え方や
価値創造力を武器に挑戦

学生の成長

地域で「問い」を
もち、すぐに地域で
活動できる状態で
入学してくる

↓

「自分らしく社会に
参画する力」がつく

↓

起業力がつく

↓

自分らしく働ける

↓

地域創生